



当日会場では、石狩市内の障がい福祉事業所の活動紹介と製品販売が行われ、また、浦河べてるの家の日高昆布製品や書籍の販売もあり、大勢の方でにぎわっていました。
 上映会場でしか購入できない熊木杏里さんの限定作品「ぼくらのあり方」が収録された映画「降りてゆく生き方」オリジナル・サウンドトラックCDも好評でした。各事業所のみなさんご協力ありがとうございました。



皆様のご協力に感謝申し上げます。

上映にあたってチケット販売にご協力いただいた「コープさっぽろ いしかり文化教室様」「石狩市市民活動情報センターぼぼらーと様」「有限会社 アット(いしかり地域交流プラザあいまち)様」「はやしや商店様」「グルーミングサロン ブーンズ様」「石狩地域活動支援センターやすみや様」「パン菓子工房パークリー様」「ベーカリーショップこむぎっこ」様「地域活動支援センターえみな様」「地域支援事業所 ゆうゆう様」「とれたってマルシェ」様「レラ・もうらい様」「厚田はまなす園様」ありがとうございました。

映画上映の説明に貴重な会議の時間を割いていただきました石狩市民生委員児童委員連合協議会6地区の皆さん、映画ポスター掲示等のご協力いただいた各機関やスーパー商店、学校などの皆様ありがとうございました。

当日の会場準備・片づけで北コミュニティセンターの皆さんには大変お世話になりました。また、多くの皆さんにお手伝いいただきありがとうございました。

石狩市、石狩市教育委員会、石狩商工会議所、石狩市社会福祉協議会の各機関・団体の御後援ありがとうございました。第1部・第2部の手話通訳を交替でしていただいたり、他にも多くの皆様のご協力をいただき、映画「降りてゆく生き方」をこの石狩の地で上映できましたことに感謝申し上げます。

映画「降りてゆく生き方」自主上映 in いしかり
 ホームページでも紹介します。

<http://oritayuku-ishikarijoui.jimdo.com/>



映画「降りてゆく生き方」オフィシャルサイト

<http://www.nippon-p.org/>



P & A いしかり
 2015年11月 2日
活動広報
 第16号

どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！
 障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

P & A いしかり 事務局
 石狩市障がい者支援センター (石狩市樽川519-2)
 TEL 0133-73-8868
 FAX 0133-73-8869 発行責任者 佐々木公子



主演 P & A いしかり
 NPO法人石狩市手をつなぐ育成会
 石狩市障がい者支援センター保護育成
 社会福祉法人はるにれの里
 後援
 石狩市
 石狩市教育委員会
 石狩商工会議所
 石狩市社会福祉協議会

上映に316名の観客！！

去る10月12日(月・祝)に石狩市北コミュニティセンターで、映画「降りてゆく生き方」自主上映会が開催され、316名の観客の皆様が来場されました。

PAI世話人代表あいさつ
 手話通訳のご協力をいただきました。

「降りてゆく生き方」の石狩上映会が無事終わりました。このお忙しい時期、御都合をつけ、石狩上映会にお運びくださいました皆様、本当にありがとうございました。障がいがあっても安心して地域で暮らしていけるように良き理解者を増やしたい、広げたい思いをP & A いしかりのメンバー、サポーターの方々、ボランティアの方々と共に地域の皆さんに様々な障がいを正しく理解していただくために活動していきたいと今、あらためて強く思っています。
 石狩上映会に準備から、上映当日まで関わって下さったすべての皆様に心から感謝申し上げます。
 P & A いしかり世話人代表 佐々木公子





皆さまから感想を寄せていただきましたので、ご紹介します。

映画お誘いありがとうございました。

正直 映画の内容については、期待してなかったのですが、今現在、必死で生きてきている自分に、ひとやすみの時間を与えていただいたとっております。故郷に帰って、今は亡き両親に会えたような気持ちにさせていただきました。自然の中で生かされているのだとおもいましたよ。夫は映画を観る前に俺は寝ると言っていました、最後までしっかり観ていましたよ。きっと それなりに感動もあったと思います。

まだ、まだ、多くの人にこの映画を観てほしいと思います。どうぞ、がんばって下さいね。

札幌のあるご夫妻より



私たちは日々忙しい毎日に追われている中で、大切なものを見落としがちです。映画を鑑賞させて頂き、武田鉄矢が演じた人間が何かに気づき人生を改めて見直していく様を自分の生き方に照らし合わせて見つめる事が出来ました。どんな人もその人なりの価値を持ち平等に生きる大切さを改めて感じる事が出来ました。

工房ぶら里スタッフ 藤田 幸枝

最初にタイトルを聞き、難しいイメージがありましたが、いざ見始めると言葉の言い回しが面白く2時間弱の時間があっという間でした。

そして終わった時には心がじんわりと温かくなり、何かの歌にもありましたが人間っていいなと思いました。

本編の中でそのままと腐敗でもそこで変わることができたら発酵、なんとも良い例えです。色々な発酵によって色々な味になる、失敗しても変わるそして変わることが出来ればそれは失敗ではないと言われているような気がしました。

この映画を見ることで様々な気付きができ、またお手伝いの合間には、関係者の方に撮影秘話なども聞けてとてもよい経験となりました。

生き方について考える機会を与えて頂き、これから私は沢山の発酵を繰り返し味のある生き方をしていきたいと思えました。

金井 美幸



映画「降りてゆく生き方」音楽プロデューサー柴木明浩さん。柴木さんは全国各地の上映会へ機材を持って駆け巡られています。今回のいしかり上映では、いろいろと相談し、アドバイスをいただきました。



浦河べての家の書籍コーナー



映画「降りてゆく生き方」の上映会は、向谷地さんと6名の当事者の方々の特別講演を聴ける貴重な機会でした。

精神障がいをお持ちの方々の体験や、病気との闘いは壮絶なものであり、しかし誰にでも起こり得るものでもあったと思います。

人生の中でそうした困難に出会い、紆余曲折を経て、あの日大勢の前で話している皆さんは、むしろ力強く見えました。お互いを受け入れ、支え合える仲間がいることで、障がいを障がいと捉えるのではなく、自分の一部とか、むしろ強みと捉えられるようになっていたように感じました。自分のことを肯定できるようになる仲間や、居場所の存在は人生においてとても重要なものだと思います。そうした居場所の多い世の中、地域全体が居場所になっていく「地域づくり」の重要性や意味を改めて強く感じた講演会でした。

あるばスタッフ 里見 悠子

降りてゆく生き方すなわち豊かさを求め昇る世界から無の境地に至るまで、武田鉄矢が演じる川本五十六という一人の人間の生き方を介して、さまざまな人との出会いを通じ、変化してゆくと言うすばらしい人間ドラマであったと感じました。

本来昔から人々には神を拝み、自然と動物、植物も共存する生き方をしてきたが、豊かさを求める余り、そこから自然破壊が起こり、全ての成り立ちが崩れている原因でもありました。

劇中セリフの中で「人間だけが特別で一番偉そうに思っていないかな」この言葉も深いのですが、まだまだスクリーンから聞こえてくるすばらしい言霊がありました。

自然に涙があふれ.....本当に感激です。この映画を観終わった時、自分の心がスーツ何か落とされた様に思いました。

人々の暮らし、生き方は違いますが、ちょっと原点に戻るチャンスを与えてくれた映画でした。スクリーンから流れ出る音楽も素晴らしかった.....年代的に私の中で「友よ」なつかしかった。音楽を作られた方の舞台挨拶。本当に感激ありがとう.....

今度この映画にめぐり会えたら、私は片手にチケットを持ち歩き、見ていない方にこう表現したいと思います。

見て損はしません。財産になる映画ですよ.....

本当に見る機会を与えて下さいましたスタッフの皆様にお礼を申し上げます。

長谷川友子

宮城県大崎から映画上映でつながったスタッフジャンパー



会場でスタッフが来ていたジャンパーは、実は3. 11東日本大震災にあった宮城県大崎市での上映会の時に生まれたもので、このジャンパーが全国各上映地に引き継がれ、今回は石狩に繋がりました。そして、石狩からも1枚のジャンパーが次の地へと.....

石狩市から次の上映地へ

